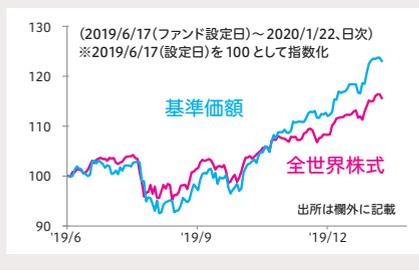


【図2】ポジティブ・チェンジと全世界株式の推移



【投資リスク】基準価額の変動要因：基準価額は、株式市場の相場変動による組入株式の価格変動、為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみさまに帰属します。したがって、投資者のみさまの投資元本が保証されているのではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。主な変動要因は、価格変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリー・リスクです。上記は主たるリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは、投資信託説明書（交付目録見書）をご覧ください。【ファンドの費用】【お客さまが直接的に負担する費用】購入時手数料：購入価額に対して、上限3.30%（税込3.00%）信託財産留保額：ありません。【お客さまが信託財産で間接的に負担する費用】運用管理費用（信託報酬）：ファンドの純資産総額に対して、年率1.5180%程度（税抜）年率1.3850%程度）※ファンドの信託報酬率と、投資対象とする投資信託証券の信託（管理）報酬率を合わせた実質的な信託報酬率です。その他の費用・手数料：監査費用、売買委託手数料、投資信託証券における諸費用および税金等、外国での資産の保管に要する費用、その他信託事務にかかる諸費用等を信託財産からご負担いただきます。これらの費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。※上記の費用（手数料等）については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。 ※当広告は、三菱UFJ国際投信が作成したものです。投資信託をご購入の際は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。投資信託は預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。（2020年2月）

商号：三菱UFJ国際投信株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

お客さま専用フリーダイヤル  
**0120-151034**  
 （受付時間／営業日の9：00～17：00）

ポジティブ・チェンジの  
 詳細はこちら▶



出所：Datastreamのデータを基に三菱UFJ国際投信作成 ※市場全体の値動きを示すために、全世界株式(MSCI オール・カントリー・ワールド インデックス(税引き前配当込み・円換算))を使用。MSCI オール・カントリー・ワールド インデックスに対する著作権およびその他の財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。当ファンドのベンチマークではありません。基準価額は、1万口当たり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値。上記は、過去の

長期投資の姿勢が  
 社会的課題の解決と合致  
 運用を担うのは、「長期で成長する企業に投資する」という運用哲学のもと、100年

その一例が下の【図1】だ。こうした数字を見れば、疾病予防や環境保全などの課題解決へ前進していると実感できる。

超の歴史と実績を有する英国の独立系運用会社ベイリー・ギフォード社(\*)である。「非上場のため外部株主からの短期的な要求がなく運用方針がぶれない。年金基金など国内外のプロの機関投資家からの信頼も厚い運用会社です」と駿河氏。同社は世界中の主要企業の経営陣と長年に亘り培った太いパイプを持ち、

「社会的課題の解決は、半年、1年という短期間で達成できるものではありません。だからこそ長期投資が重要であり、その点で同社の運用哲学とも親和性が高いと考えています」同ファンドのパフォーマンスは堅調に推移してきた【図

「皆さま一人ひとりの投資が、私たちが直面している課題を解決し、未来をより良くするポジティブな影響を与えていくことを、実感していただければ——。これが『ポジティブ・



三菱UFJ国際投信  
 商品マーケティング部門  
 常務執行役員  
**駿河秀樹氏**

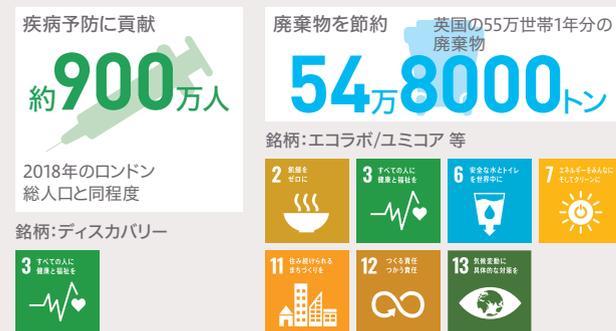
## 三菱UFJ国際投信 ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド （愛称：ポジティブ・チェンジ）

### 課題解決とリターンを両立 希望をつむぐインパクト投資

投資を通じて、より良い社会をつくる——。社会的課題解決と経済的リターンの両立を目指すのが、三菱UFJ国際投信の「ベイリー・ギフォードインパクト投資ファンド(愛称：ポジティブ・チェンジ)」である。

「チェンジ」の特徴です。三菱UFJ国際投信の常務執行役員、駿河秀樹氏は熱く語る。ESG投資の手法の一つで、社会的課題解決と経済的リターン獲得の両立を目指す投資手法を「インパクト投資」と呼ぶ。本業を通じて社会的課題解決を目指す企業は、その取り組みの持続性や成長性が期待できる。こうした観点に着目したのが同ファンドだ。社会にもたらす影響を数字で実感できる。現在、同ファンドは、①平

【図1】『ポジティブ・チェンジ』がもたらしたインパクトの一例



※『ポジティブ・チェンジ インパクトレポートサマリー2019』より抜粋

実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。計測期間が異なる場合は結果も異なる点にご注意ください。  
 \* 当広告は、ベイリー・ギフォード・インベストメント・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッドをベイリー・ギフォード社と言います。